

Le Monde de Keishin

Omnia Possumus Omnes

慶進生は何でもできる



ICT が創る慶進の世界

CONTENTS

P. 2 コラム「Omnia Possumus Omnes
慶進生は何でもできる」

P. 3 17期生へのメッセージ

P. 4・5 慶進イノベーション

P. 6・7 11期生の慶進
大学合格実績

P. 8 お知らせ
小さな本箱



Omnia Possumus Omnes

慶進生は何でもできる

十七世紀のロンドンでペストが大流行しました。後に『ロビンソン・クルーソー』を著したダニエル・デフォォーの『疫病の年』が当時の状況を克明に描いています。翌年のロンドン大火でノミやネズミがいなくなり、疫病は収束しました。

当時の学生たちは疎開を余儀なくされました。オックスフォードと並ぶ英国の名門大学ケンブリッジの学生たちも故郷などに逃れたそうです。その学生の一人がアイザック・ニュートンでした。ニュートンはケンブリッジの小間使いから解放され、故郷で思索に耽りました。その時間が万有引力の法則など「ニュートンの三大業績」を生み出す時間となったのです。

今、世界も困難に見舞われています。新聞やニュースでは、この困難に立ち向かい、団結する人々の言葉に溢れています。人類は強い。きっとこの困難も克服することでしょう。

そんな中、イタリアの校長先生が学生に伝えたメッセージが印象的でした。「この機会を活かして散歩をしたり、良質な本を読んでもください」と。きっと慶進生たちもそうしていたことでしょう。三月三日から始まった長い休校期間を有意義に過ごしていたに違いありません。イタリアの学

生のように散歩をしたり、読書をしたり。ニュートンのように思索に耽っていたことだと思います。

しかし、ニュートンの頃とは違うことがあります。それはICTがあることです。二〇一六年から導入したGoogle for EducationのClassroomを活用して、毎日課題にあたり、提出しています。先生方も職員室でうれしそうな顔して、コメントを打ち込んでいます。Hangouts Meetを使ってテレビ電話で朝の会をするのも新鮮です。Feelnoteでは、課題以外の慶進生の活動を互いに共有しています。これらはICTがもたらした慶進の世界です。

十七期生が入学してきました。彼らも一人一台iPadをもつことになりました。慶進生は何でもできる。それは、夢があるからです。だから、英知を尽くして未来を切り拓く。四月から慶進の制服に袖を通した十七期生がどんな慶進の世界をつくるのか。どんなニュートンがうまれてくるのか。それが今から楽しみです。

6年中高一貫教育 英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2年毎に3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒は主体的に学習に取り組み、校内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材に育ちます。

1st Stage

基礎学力養成期

中学1年生

中学2年生

2nd Stage

実力充実期

中学3年生

高校1年生

3rd Stage

発展応用期

高校2年生

高校3年生

慶進イノベーション、慶進生が変える慶進の世界

令和二年二月六日、令和二年度慶進中学校生徒会長選挙がおこなわれ、15期生山田康平くん（中三）が生徒会長に選出されました。新生徒会長が目指す慶進の世界とは何か、新しく慶進の制服に袖を通す17期生、そして在校生に伝えます。

新中一生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

みなさんにとって、これから送る中学校生活は、今までとは大きく変わると思っています。

例えば、今まで歩いて登校していたけれどこれからはバスや電車で登校するようになったり、部活に入れば帰宅時間が遅くなったりするなど、人それぞれ生活リズムが変わると思います。みなさんの生活が変わっていくのと同じように慶進中学校自体もこれからも変わり続けていきます。

慶進中学校では今まさに、イノベーションが進行しています。イノベーションというのは視野を広げていき、いろいろなことを知って多くの考えを持つということなんです。具体的に言うと、慶進ではICTの活用能力を高める入り口として、タブレット端末を導入し、一人一人が情報と接する機会を増やしています。慶進生はこの学校が進めているイノベーションの波に乗って、一つのことに対して、自分一人の視野だけではなく、いろいろな視点から考えることができます。このように進化し

生徒会長 15期生

山田 康平（中三）



ていくことは、自分を変えるためにも、とても大切だと思います。

しかし、だからといって今までしてきたことをいい加減にしてはいけません。当たり前ですが、学校ではこれまで続けてきた行事も一つひとつ大切に続けていきます。スポーツフェスティバルや合唱コンクールなど沢山の行事があります。新しいことをするからといって、これらの行事に手を抜くということはありません。

同じようにみなさんにとっても、帰宅時間が遅くなったからといって今までできていた家庭学習をしなくなったり、就寝時間が遅くなったからといって授業中居眠りしたり、これではせっかくの新しい中学生生活が台無しです。これから生活リズムが大きく変わる新一年生には、当たり前のことを大事にしながら、新たにどんな自分自身を成長させるためにいろいろなこ

とを試して欲しいです。また、今までしてきた大切なことを適当にしないよう、一日一日を大切に中学校生活を送って欲しいと思います。

新一年生のみなさんはまず、今まで意識することが少なかった「先輩との関係」をつかみ、色々な情報を先輩から得て、自分の中に取り込んでください。慶進の先輩は優しい人ばかりなので、わからないことがあればきつと優しく教えてくれると思います。

僕が会長を務める生徒会でも、これまでの先輩たちから受け継いだ行事の一つひとつを大切に行っていく、さらに生徒みなさんの意見をたくさん取り入れて、変えるべきものはみんなに変えていきたいと思っています。

どの学年の人も進級したことをきっかけにそれぞれが変わっていきように頑張っていきたい！

17期生へのメッセージ

中学校1年1組担任

岡藤 朋宏

教科：数学

教科の好きなところ

人生を豊かにする様々な力がつくところ

やればできる！
かみならずできる！！
ぜったいできる！！
最強の17期生を目指しましょう



中学校1年2組担任

本廣 淑恵

教科：英語

教科の好きなところ

文法が明解なところ。
音とリズムが軽快なところ。

「学び」はチーム戦。
仲間を大事に。
一人では無理でも
仲間と一緒になら
100%を超えられる！



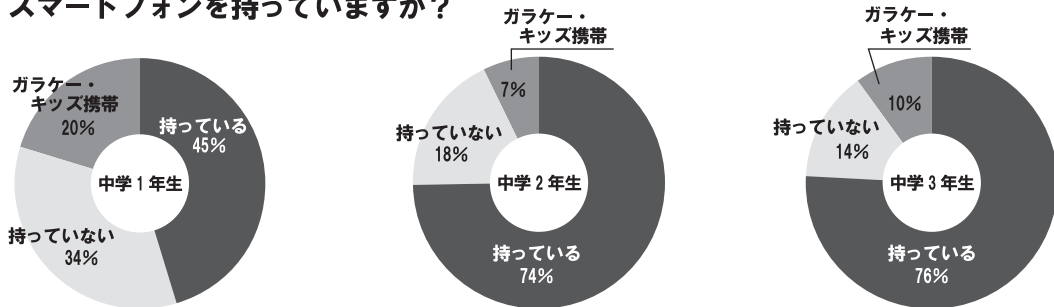
特集

慶進イノベーション ICTが創る慶進の世界

part
1

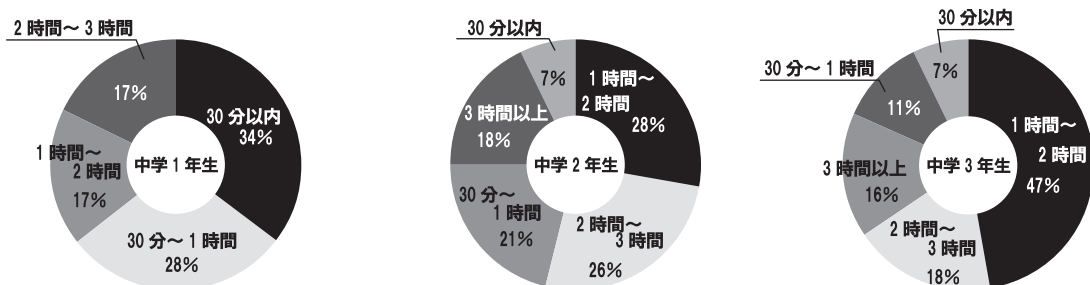
令和元年度入学の16期生から慶進中学生は、一人一台iPadを所有することになりました。そして、「KS ICT EDUCATION POLICY」に基づいて、授業はもちろん家庭学習や行事など様々な場面でiPadを活用した取組を進めています。具体的には授業でGoogleのアプリを使用して、同時進行で一つのファイルで作業をしたり、課題をClassroomを通じて提出したり、Feelnoteを利用してポートフォリオの材料を蓄積したりといった活動を行っています。それは、今までの慶進の世界では見たことのない世界です。そこで、慶進生のICT事情がどう変化したのか、本号では「特集 慶進イノベーション ICTが創る慶進の世界」part1として、スマートフォンにおける変化を探ってみました。次号では授業など日ごろの取組の変化を特集します。

Q スマートフォンを持っていますか？



スマートフォンの所有率が他の学年が約75%に対して、iPadを持っている中学校1年生は約45%と大きな変化がありました。スマートフォンはとても便利な機器ですが、成績が下がるなどの研究結果があるように中学生への悪影響もあります。学校で使用アプリや閲覧サイトを管理できるiPadだと安心して使用できます。

Q 平日の平均的な使用時間は？（スマートフォンを持っている人のみ回答）



スマートフォンの使用時間も中学校1年生は少ない、という結果になりました。もちろん中学校2年生・3年生は学校の課題を自分のスマートフォンで取り組みますから、その時間も含まれているので多いのでしょう。しかし、スマートフォンを所有している中学校1年生はスマートフォンの使用時間が短いという結果を見て取ることができます。

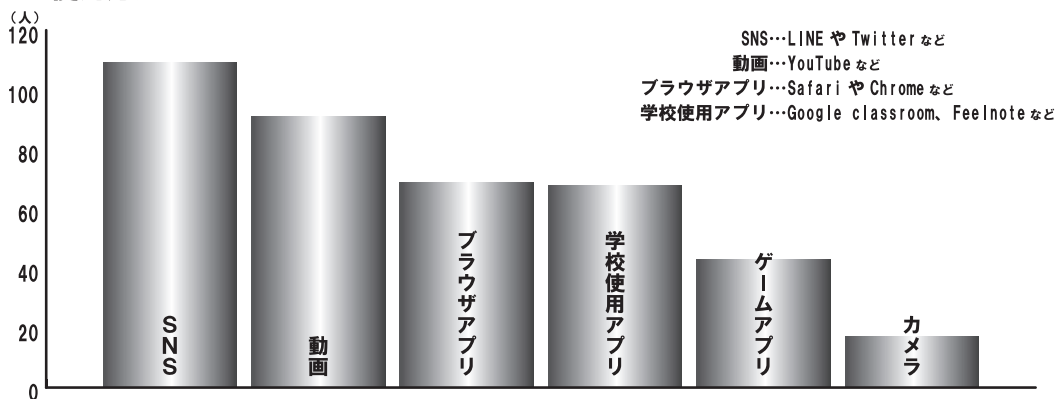
いつでもどこでも
協働学習が可能に

一番大きな変化は時間と空間を問わずに活動に取り組めるという点だと思います。これまではグループ活動をするときは、学校の授業内や放課後の時間などにみんなが集まって取り組まなければできませんでした。が、iPad導入後は、例えばFeelnoteのグループ機能を使ってそれぞれの家で話し合いが進められるようになりました。実際にスポーツフェスティバルの実行委員は夏休み中Feelnote上で一年生の学年競技の打ち合わせを行うことができています。

また、校内ディベート大会のときにはGoogleドキュメントで立論を共有して、お互いに意見をコメントしながら立論を作成することもできていました。これも帰宅後の自宅での活動です。このように、iPadによって、時間と空間を選ばず生徒同士が協働学習に取り組むことが可能になりました。

国語科 河村真二

Q おもな使用方法



スマートフォンの主な使用法はLINEなどのSNSやYouTubeなどの動画閲覧です。中学校2年生・3年生はiPadを持っていないので、学校使用アプリの使用率も高くなっています。中学校1年生はiPadで学校使用アプリを使用するので、スマートフォンを持っている場合はSNSや動画閲覧の割合が高くなっています。

このようにiPadを所有することでスマートフォンの所有率が下がったことがわかります。そして、中学校1年生のスマートフォン所有率が低いことから、スマートフォンで主に使用するSNSや動画閲覧の利用者が他学年より少ないことがわかります。さらに中学校2年生・3年生が自分のスマートフォンを使用しているのと同様に、Google for Educationなどの学校使用アプリの利用が中学校1年生のiPadの主な使用方法であることがわかります。次号ではそんなiPadを使用した取組を探っていきます。

中学校1年生に聞く
iPadを使って

よかったこと

- 提出物の提出状況が一目でわかること
- 検定情報を知ることができたこと
- みんなで意見や感想を共有できたこと
- 調べたいことをすぐに調べられたこと
- 緊急時にも知らせが届くこと
- classroom のアンケートで、みんなの意見を早く集めることができたこと
- classroom や feelnote のメッセージ機能で連絡できたこと
- タイピングを用いることによって課題を終わらせるスピードが速くなったこと
- ICT の知識が増えて、機器を上手に使えるようになったこと

これからしたいこと

- もっと早くタイピングできるようになりたい
- 学年を超えた交流
- iPad を使用する上でのルールを明確にしたほうがいい
- 調べものや勉強に活用したい
- Word、Excel、PowerPoint をもっと使いたい
- 全ての教科で iPad を使うこと
- Hangouts Meet by Google などを使って離れたところでの合同授業
- テレビ電話のような機能を活用して家でも授業を受けられるようにしたい
- 班活動を iPad 上でできるようになりたい

総合学習
新しい大学入試問題

「甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の中で最も『大人』にふさわしい味覚だと思ふものを一つ選び、その理由を六〇字以内に答えなさい」
皆さんはどう考えますか。これは、授業で取り扱っている、「新しい大学入試問題」というものです。一〇分程度考えた後に、班の中で話し合い、良い作品を選びます。さらにその作品を学年の前で発表して、その中で一番良いと思ったものを投票して決めるという流れです。

「大学入試問題」といっても、意外に身近な話題が多いので、楽しく、積極的に取り組むことができます。僕がこの問題で学んだこと・良かったことが大きく分けて三つあります。

一つ目は、自分の考えを深められることです。この問題には明確な答えがないので、みんなが多種多様な意見を発表します。そして、自分にはない新しい価値観や考え方を発見することができたり、自分の意見に磨き上げたりすることができたり。これが、この問題の一番楽しいところだと思います。

二つ目は、記述力を高められることです。この問題は制限時間が非常に短いので、自分の頭の中にあることを瞬時に言語化し、指定された文字数にうまくまとめなければなりません。これは、とても難しいことで、僕も最初は時間オーバーになり、何度も考えたのですが、何回も問題を解いていくうちに少しずつ早くなり、間に合うようになり、また、ほかのことで感想を書くときなども、思ったことがスラスラ書けて、言葉で自分の考えを表すのが上手になったと思います。

三つ目は、プレゼン能力を高められることです。題材にうまく合うような発表の仕方を考えて、それをみんなの前で恥ずかしがらずに堂々と発表できるようにします。

これらのことは、入試だけでなく、日常生活や社会に出てからも重要視される能力です。だから、この問題を通して能力を高めていくことが、とても大切だと思います。

SERIES X The Talking with schoolmate...



原田 悠矢

山口大学
医学部医学科

宮本 朱梨

山口東京理科大学
薬学部薬学科

岡本 和佳奈

広島大学
医学部医学科

立石 真之

東京大学
理科一類

田中 吏

埼玉大学
教養学部教養学科

令和元年度卒業

11期生の慶進

「最強の11期生になるために...」11期生の学年目標です。過去の慶進の先輩方を全ての面で超えていこうと、壮大な目標を立てて六年前にこの子たちと一緒に中高一貫のスタートを切ったことを思い出します。毎年四月には武道館横の満開の桜の下で写真を撮り、一年間の抱負を書いて教室掲示を作っていたことも懐かしく感じます。

中学校時代、学習面はもちろんのこと、礼儀・マナー・態度など当たり前のことを当たり前に行い、何をやるにも全力でという基本的なことをしっかりとできるようにしようと伝えました。特に提出物、服装については本当にしっかりと続けました。私は、全てのことはつながっているということをお大切にしています。自分の理想通りの結果を出すためには、その途中過程で自分の考える「良い」選択肢を選び続けていく必要があります。もちろん全てが正しかったかどうかは振り返ってみないと分からない部分もありますが、その時にその場でできる正しいと思った「良い」判断はきちんとできるようにしてもらいたいというのが私が意識して伝えなかったことです。

高校に上がると受験勉強が本格的にスタートし、残りの時間とやらなければいけない内容を考え、一生懸命に日々努力をしている人の割合が多くなっていたことを覚えています。朝のちよとした時間、放課後の学習スタート時間の設定などスケジュール管理も徹底していたように思います。学校行事関係も真剣に取り組み、責任感を持って成功させました。

この11期生六十八名の生徒の多くは私のイメージする思いをしつかりと汲んでくれて、心身ともに立派に成長して六年間頑張りました。高校三年生では「最強の11期生になる！」を目標に、本当に辛く厳しい一年間を乗り切りました。学力・メンタル・健康のバランスを崩してしまいうちも多くなりましたが、チーム11期生として友人、教員、保護者の連携を上手にとりながら様々なケアも含めてできることは全てやりました。ここで学んだこと、教わったことを今後の人生に最大限利用してこれから頑張っていくって欲しいと思います。

最後に、どんな時もどんなことでも物事に挑む心構えは...
やればできる！かならずできる！...ぜったいできる！...！！

数学科 岡藤 朋宏

六年間の中で変わったことは？

岡本 大きく変わったと思うことは、慶進でのいろいろな行事・課外活動を通して、人前で話せるようになったことです。また、知らない人ともコミュニケーションをとれるようになったことです。まだまだ苦手な部分もありますが、これからももっと多くの人と関われるよう頑張っていきたいと思っています。

宮本 何事にも積極的に取り組むようになりました。中学校入学当初の私は自分から進んで行動したり意見を言ったりすることが苦手でした。ですが部活動を通して積極性や協調性を学び、部長となつてからは自分が指示を出すことで自分の意見を言えるようになり、責任感も学びました。大学生になつても部活動で学んだことを忘れずに頑張っています！

原田 受験勉強や部活を通して自分で考えて行動する力がついたと思います。

田中 行動力と決断力がついたことです。面白そうと思ったものにはとりあえず挑戦するようになり、常に自分の頭を使って行動する

ようになりました。またそういういった時に賛同してくれる人にも恵まれ、彼らにはとても感謝しています。

立石 チームとして何かに取り組む協調性だと思っています。科学の甲子園もそうですが、クラスでは学級委員を務めさせてもらい、そこでの経験から多くのことを学ぶことができたと思います。

大学、あるいは将来したいことは？
岡本 まず、大学では高校時代もしていたボランティア活動を続けていきたいと思っています。特に、多くの人と関われるボランティア活動ができるというのと考えると、私は子どもと関わるのが好きで今は小児科医を目指しているのですが、将来的には子どもたちの生活を支える活動をしたいと思っています。(子ども食堂など)

宮本 薬の副作用について深く学びたいと思っています。そして将来は薬剤師となり、薬を提供する際に薬の説明だけではなく患者さんの食生活などのアドバイスもしたいと思っています。

原田 大学では医学はもちろん、主体的に動くことで

医師に必要なコミュニケーション能力や体力を身に付けていきたいと思っています。将来は地域のニーズに応えられる医師になりたいです。

慶進最高の思い出は？
宮本 最後の慶進祭です。私は中一からバトン部に所属しており、高三の慶進祭が最後のステージでした。演技をしている最中に今までの部活での経験や一緒に頑張ってきた同級生、先輩、後輩、支えてくださった先生方のことを思い出して胸が熱くなったのを今でもよく覚えています。大変なこととたくさんありましたが「部活を辞めないで良かった」そう思える瞬間でした。様々なイベントや行事がありました。がやはり最後の慶進祭は私にとって忘れられない大切な思い出です。

原田 中三のオーストラリアへの語学研修です。不安が大きかった分、英語で会話ができたとときの喜びや異文化を目にできた感動が強く印象に残っています。

田中 中三の夏休みに行ったオーストラリアのホームステイです。僕にとつて初めての海外経験だったので見るもの聞くもの全てが新鮮で世界の広さみたいなの

のに強く感動したことを今でもはつきりと覚えています。これをきっかけに英語への関心や大学に進学して勉強したいと思い始めました。六年間の学生生活の中でも一番重要なポイントだったと思います。

立石 中学の時に科学の甲子園の全国大会に出場できたことです。チームの仲間と協力して理科学の課題に取り組むことは楽しいことでしたし、実際に全国の学校から集まってきた人を見ることができたのは貴重な体験でした。また、全国のレベルの高さも実感しました。

後輩へのメッセージ
岡本 学校での授業や自主学習ももちろん大切ですが、空き時間は友達と楽しく過ごしたり自分の中で何か息抜きを決めて休憩したりしつつ、たまには休みの日も設けて毎日過ごしてください！

今は楽しかった高校での生活をもう送れないことがすごく寂しいです。
受験 受験については、私は受験への最大のパワーは志望する場所に行きたい！という強い気持ちだと思っています。なので、自分が行きたいところを最後まで目指してほしいです。第一志望合格に向けて頑張れ！
宮本 中学校・高校生活はあつという間に過ぎていきます。一日一日を大切にしたい。悔いのない学校生活を送ってください。勉強するときは集中して取り組み、行事やイベントがあるときは全力で楽しむように！！大変なことや悩むこともあると思いますがどんな時も前向きな気持ちを忘れずに、様々な経験を積んでいき、自分の将来の夢へとつながっていきってください。応援しています。

令和2年度 | **大 | 学 | 合 | 格 | 実 | 績 |**

中高一貫コースの主な合格先 ()は医学部医学科 3月25日現在

東京大学	2名	自治医科大学	1名(1)
東京都立大学	1名	日本医科大学	1名(1)
筑波大学	1名	慶應義塾大学	1名
神戸大学	1名	早稲田大学	3名
広島大学	3名(1)	東京理科大学	2名
山口大学	9名(6)	関西医科大学	1名(1)
九州大学	4名(2)	久留米大学	2名(1)

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.keishin-ug-ed.jp>**お | 知 | ら | せ |****■令和2年度 行事予定**

6月20日(土)	学校説明会①
7月11日(土)	学校説明会②
8月23日(日)	学力診断テスト
10月17日(土)	入試説明会①
11月14日(土)	入試説明会②

慶進でお会いするのを楽しみにしています。

La photo de Keishin



技術が学びを変え そして人が世界を変えていく

技術を生み出し、世界を変えていくのは人です。しかし、技術を駆使することによって、人と人とのつながりが変わり、学びが変わり、その先に世界を変えていく人が生まれることも事実です。

中一生全員がipadを持つようになった今年、校内ディベート大会の準備風景も大きく変わりました。チーム全員が同時に情報収集し、それぞれが同時にアイディアを出しながら一つの議論を作り上げ、そして共有する。それによって加速度的にすぐれた議論が生み出される。そんな環境が慶進に生まれました。



第13回 小さな本箱

数学科 早川 武 先生のおすすめの本

思考の整理学

この本との出会いは、三年前の我が家の本棚です。読書好きな妻が購入し、我が家に来てきた本でした。ある休日、本棚を整理するときに、私はそのタイトルに惹かれ、読んでいきました。新学習指導要領の多くの場面で使われている「思考」ということがタイトルに使われていることもあり、自分の仕事の中でも活かされるのでは...と思い読みました。著者の外山滋比古さんは、お茶の水女子大学名誉教授、日本の英文学者、言語学者、評論家です。この本は一九八六年に初版が発行され、かなり古い本で、我が家のものはその三〇年後、二〇一六年発行のものでした。歴史を感じますね。

さて、本のはじめには、グライダーと飛行機の違いが述べられています。『グライダーと飛行機は、よく似ているがグライダーは自力で飛ぶことができない。学校はグライダー人間の訓練所である。』この一文に驚きました。三〇年も前にそんな風に学校を見ている教授がいたんですね。そこから三〇年の間で教育界も大きく変化し、子供たちの学びの形も変わってきました。

外山 滋比古

ました。グライダーにエンジンを搭載するにはどうすればいいのか。学校も社会もそんなことを考えています。この本ではその搭載の仕方が豊富に記載されています。三〇年前に、社会人として本場に必要なのは何かを考え、世に提言しているところに著者の時代に流されない独創性を感じました。

今、世の中は三〇年前とは比べることのできないくらい多くの情報が溢れ、その情報を収集し、整理して何を活かすかを判断しなければなりません。この世の中で生き抜くために、この本で書かれている以下の①～⑥が重要になります。①メモをとり、整理すること②情報を捨てること③他分野との融合で新たな思考を生むこと④考えを覆かせること⑤考えをしゃべること

この本と出会い、本を通し著者と対話し、思考に向き合い、思考というもの自体を少し知ることができ、人生が豊かになったと感じます。さあ皆さん、多くの本から学び、人生をもっと豊かにしていきましょう。